広報うちこ
UCHIKO
2012. 3 .1
Vol.172

CONTENTS 目次

2 特集：特別支援教育
みんなで育ち合おう

10 まちのニュース
からり「お弁当・お惣菜大賞」受賞／大西啓介さん商工会全国大会で最優秀賞　他

12 うちこ往来
参川小でえひめ食文化普及講座／「気軽に文化講座in内子」シンポジウム／愛媛県原子力防災広域避難訓練　他

14 みんなのひろば
リレーエッセイ／はじめてのバースデー／人☆キラリ　他

18 HELLO!!!

19 ゆうてぃあ　Vol.131

20 議会だより　第50号

22 町からのお知らせ
「第16回内子座文楽公演」電話予約開始／国民健康保険被保険者証をカード化／小田地区のごみ・し尿処理が変わります　他

26 くらしの情報
神南荘臨時職員募集／うちこ人権映画際／みどり苑「さくら祭り」／第17回「暮らしの中の手仕事展」　他

28 住人十色

特集：特別支援教育

みんなで育ち合おう

今、保育園、幼稚園や学校での教育のカタチが変わってきています。
「障害のある子への特殊な教育」から「一人一人に応じた支援」へと。
人にはさまざまな特性や個性があります。
中には、得意、不得意に偏りがあったり、周りの人とペースや思考が違っていたりして、
生きづらさを抱えている子もいます。
知って、気付いて、理解して、
温かいハートのこもった「支援」、一緒に考えませんか。

手先や体の使い方がぎこちない

落ち着きがなくいつも動いている

こだわりが強い

衝動的で考える前に動いてしまう

集団生活になじめない

読み・書き・計算などの学習につまずきがある

こんなこと、気になっていませんか

何となく気になる行動。もしかしたら、それには理由があるのかもしれません。見えない特性を知り、気付くこと。そこから始まります。

1

身近に、上記のような行動が「ちょっと気になる」子はいませんか。これらは「発達障害」の傾向がある人に多く見られる行動です。発達障害とは、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害や、これに類する脳機能障害で、その症状が低年齢で現れるものをいいます。また「発達障害」という診断は受けていないものの、このような傾向のある人は年々増えているといわれています。

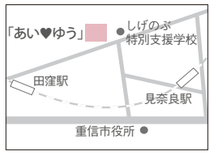
上に挙げたような特徴は、一見誰にでも見られるもの。ただ中には、その傾向が強く自分でコントロールすることが難しい子がいます。

平成19年度に始まった「特別支援教育」では、知的障害、身体障害などの子どもたちと併せて、これらの特性が見られる子どもたちにも適した支援を行おうとしています。

本人の力だけではどうしようもない特性。少しの支援で毎日がもっと楽しく充実したものになります。まず、みんなが知り、気付くこと。そこから支援が始まります。

愛媛県発達障害者支援センター「あい♥ゆう」
（県立子ども療育センター内）

発達障害に関する相談を受け付け、各関係機関と連携して支援します。
☎089（955）5532



特性に早く気付いてあげることが大切

森本武彦（たけひこ）　愛媛県発達障害者支援センター長

発達障害の症状はさまざまですが、コミュニケーションを苦手とする場合が多くあります。中には疎外感からストレスをため、暴言や暴力につながる人も。ただ見た目からは分かりにくく、その特性に気付かれないことも多いのです。障害かどうかに関わらず誰でも多少の偏りやつまずきを持っているもの。もし気になる人がいたら「何か理由があるのかもしれない」と目を向けてください。周りの人がその特性に早く気付き、理解してあげることが大切です。

変わる、暮らしやすく学びやすく

一人一人の特性に適した支援や工夫で、誰もが暮らしやすく学びやすくなります。偏りやつまずきを少しでもなくし、その子が持つ能力を最大限に伸ばすために、学校ではさまざまな取り組みを進めています。

以前の「特殊教育」は、視覚や聴覚の障害、知的障害、肢体不自由などを対象に、特別な場で手厚い教育を行うことに重点を置いていました。これに対し特別支援教育は、発達障害も含め、通常の学級に在籍している子も対象となり、その中で個々の特性に応じた支援を行います。

内子町特別支援連携協議会の餘家幹子会長は、「特別支援教育では一人一人の教育的ニーズに応じて多様な教育の場が確保されています。目指すのは、障害の有無に関わらず、誰にとっても分かりやすく安心して学べるユニバーサルデザインの授業づくり、教室づくりです」と話します。

障害のある子には特別支援学校や特別支援学級などの場があります。「特別支援学級は〝特別な学級〟ではなく、その子の特性に応じた関わり方や時間のかけ方など、より適した環境を提供するための場です」と話す餘家会長。例えば、音などの刺激に敏感過ぎてじっとしているのが難しい子は、静かな環境に身を置くことで集中して学習に取り組めるようになります。また読む・書く・計算するなどの特定の分野だけが苦手な子は、さまざまな学習方法を取り入れたり、時間をかけて何度も繰り返したりすることで力を伸ばしていきます。

通常の学級でも、特に障害との診断がなくても、困難さを感じている子への配慮を踏まえ、教室環境を整えたり、授業の進め方や指示の出し方を工夫したりして、全ての子が安心して学ぶことができる学級づくりに努めています。

取り組みの開始から5年。保護者からは、「最初は特別支援学級の入級に不安だったけど、子どもが分かる喜びを味わっている姿を見て、今は良かったと思う」、逆に「友達と離れ学習にすることに不安がある」などの声が聞こえます。

「特別支援教育は決して〝特別〟なことではなく、その子がどうすればやりやすくなるかを考え、その子に一番適した支援や工夫を行うもの」と話す餘家会長。一人一人が持つ力を最大限に発揮できるように、学校を挙げた取り組みが進んでいます。

分かりやすい授業・安心して学べる教室

Misogi's Case

御祓小学校６年生学級の例

1
視覚的な手掛かりで重要なところを分かりやすく示す

2
黒板に集中できるよう周囲にはできるだけ掲示物を張らない

3
授業の見通しや指示を目で見て理解できるように、分かりやすく伝える

4
授業中に気が散らないように、子どもの視線をさえぎらないように教卓は黒板の脇へ

一人一人の
発達に合わせた
特別支援教育

1_ 見通しを持って授業を受けられるよう最初に学習の流れを提示　2_言葉の意味を身に付ける反対語カード　3_ 他人の感情を読み取る練習は表情と吹き出しで　4_数の概念の理解が難しい子には目で見て分かるように　5_位をそろえて書くのが苦手な子は升目があるだけで助かります　6_色を記憶し目と手を使うビーズ通し。不器用さんには効果的　7_全体を捉える力を育てる積み木パズル

持っている力を発揮できる環境づくりが重要

内子町特別支援連携協議会　餘家幹子（みきこ）会長（御祓小学校長）

現在の特別支援教育は、特別な子だけを対象にしたものではありません。障害の有無ではなく、偏りやつまずきによる困難さを抱えている子は、失敗したり怒られたりという経験を繰り返し、自己肯定感が低くなってしまうことがあります。本人が持つ力を発揮することができ、喜びを感じられる環境づくりが重要です。

保護者の声

Mother's Voice

特別支援学級に在籍しているＢくんのお母さん（Ａさん）にお話を伺いました。

１年生のときにＢくんが書いたポスター㊤や絵日記㊦。学年別に分けてＡさんが大切に保管しています。

Ｂくんは保健センターの３歳児健診で「言葉の発達がやや遅い」との診断を受け、保健師や幼稚園の先生の勧めで療育教室に通い始めました。その後、小学校では特別支援学級に在籍。Ａさんは、「中には特別支援学級に入れることをためらう人もいるけれど、私は抵抗がありませんでした。ただ、本人に一番良い選択をしてあげたかった」と話します。

Ｂくんは、どうすればいいか分からないことがあると落ち着かなくなる傾向があるといいます。以前にテストで、最初の数問以外は全て白紙だったことがあり、Ａさんも驚いたことがありました。１番から順に解答しないといけないと思い込んでいたため、解けない問題に当たって固まってしまったのです。「そんな時は、とばして次の問題を解けばいいよ」と伝えるだけで、次からは落ち着いてテストを受けられるようになったそうです。

「特別支援学級では、本人に合わせて声掛けや授業の工夫をしたり、一対一で苦手なところを繰り返し指導してくれたりします。集団の中で、分かったふりをしたままで済ませていたら、いずれ本人が困ってしまう。“通常の学級ではいけないの？”と聞かれることもありますが、私は特別支援学級に入れて良かったと思っています。将来、自分が好きなこと、やりたいことを叶えられるようになってほしい」と話していました。

3

ゆっくり成長の一歩を後押し

偏りやつまずきを抱える子は、他の人よりも成長に時間がかかります。だから、小さい頃からゆっくり時間をかけて継続的に支援していくことが大事。成長を後押しするためのさまざまな機関や機会を、ぜひ活用してください。

より多くの人に発達障害や特別支援教育への理解を深めてもらうため、内子町教育委員会は1月7日、県発達障害者支援センターとの共催で「発達障害者支援・特別支援教育セミナー」を開きました。

第1部では、昨年、手記『僕はアスペルガー』を出版した利田潤さんが講演。「人は変化します。ただ発達障害のある人は余分に時間がかかります。どうか長い時間を与えてください」と訴えました。

発達障害などのある人は、その発達の仕方に生まれつき凸凹があります。このため他の人よりもゆっくり成長します。町保健センターの療育事業で指導を行う療育保育士・村上恵子（けいこ）さん＝伊予市＝は、「幼児期からしっかり特性と向き合い、〝ひとりひとり〟に合わせてあらゆる角度からアプローチすることで発達を促し、自分の持っている力を発揮させ、たくましく生きる力を育てたい」と話します。

人は社会状況、家庭環境や教育など多様な影響を受けながら一生をかけて発達していきます。それは障害がある人も同じ。ただ、時間がかかる分、周りの手が必要です。内子町は、生まれ持った凸凹のためにつまずきを抱える子に対し、適切な支援をしようといろいろな事業を実施しています。また幼児期から就労まで発達段階に応じた支援を行うため、保健・医療・教育・労働などさまざまな機関・専門家が連携に努めています。

機関や機会はいくつもあります。上手に活用し、成長の一歩を後押ししましょう。

発達障害者支援・特別支援教育セミナー

「地域みんなで育ちあおう」を合言葉に内子町共生館で開催（ひらで）。講演に続き、トークセッションでは愛媛大学・長尾秀夫（お）教授、新居浜市こども発達支援センター・西原勝則（かつのり）さん、ねっとwork（わーく）ジョイ・髙石徳香（のりか）さん、あい♥ゆう・森本武彦センター長が意見を交わした。保育士や教員をはじめ保護者や地域住民など約250人が参加し、学び合った。

長い目で、温かく成長を見守って

『僕はアスペルガー』著者　利田　潤（じゅん）さん（松山市）

私は3歳で小児自閉症と診断されました。幼少期から、相手の気持ちを汲み取ることが苦手で人とうまく関われず、成人し就職したものの1年で退職。自分ではどうしようもないもどかしさや寂しさから、母親への暴言や暴力に及んでしまうこともありました。変わるきっかけになったのは、作業所に通い始めていろいろな人と出会い、自分も受け入れられていると感じられたこと。昔は冗談も理解できなかったけれど、今では仲間とユーモアを楽しんでいます。発達障害のある人は成長に時間がかかります。私もいまだに悩むことがあります。どうかそのことを理解し、長い目で温かく見守ってほしいと願っています。

◉気軽に相談してください――内子町で実施している支援事業

早期発見	乳児、1歳6カ月、3歳児健診 問地域医療・健康増進センター（保健センター） ☎0893（44）6155	乳幼児の健康や発育・発達を定期的にチェックし、食事や生活の相談に応じます。
療育事業	さくらんぼ／ちょうちょ教室 問地域医療・健康増進センター（保健センター） ☎0893（44）6155	一人一人の特性を把握し、さまざまなアプローチでゆっくりじっくり発達を促します。（月に1回程度実施）
子育て支援	子育て家庭への支援 問内子町子育て支援センター ☎0893（44）6355	親子学級、子育て相談、育児情報提供など、子育て中のお父さんお母さんを応援します。
支援・相談事業	巡回相談 問保育園・幼稚園、小・中学校 問内子町教育委員会 ☎0893（44）2124	園・学校や保護者の希望に合わせて、専門家や特別支援学校の先生が一緒に適した支援方法などを考えます。
個別の支援	特別支援学級 問小・中学校 ※保育園・幼稚園、小・中・高校には、相談窓口となる特別支援教育コーディネーターが配置されています。	各人に合わせた教育課程で学習します。通常の学級と特別支援学級を行き来しながら学習を進めます（交流学習）。
卒業後の支援	障害者自立支援協議会 問保健福祉課 ☎0893（44）6154	福祉サービスはもちろん、就労相談に応じたり、就労後のサポートを協議したりします。

●相談の受け付けは、平日の午前9時～午後5時です。

さくらんぼ教室に通う宮内陸任（りくと）くん（3つ）＝和田＝。村上先生の指導でさまざまな課題に挑戦し、苦手なことも成し遂げる力を身に付けていきます

地域みんなで育ち合う

家庭や学校、地域の大人たちに見守られて成長する子どもたち。
子どもたちの支援を考えるときには、みんなで理解し温かく見守ることが必要不可欠です。
そして、子どもたちの頑張る姿や成長の軌跡は、大人の心も育ててくれます。
「地域みんなで育ち合う」という意識で、支援の輪を広げましょう。

特別支援教育の開始から5年。町内では、少しずつ特別支援教育への関心や理解が広まってきています。

前述の「発達障害者支援・特別支援教育セミナー」には、支援に携わるさまざまな機関の関係者などの他、一般の保護者や地域の人の参加が増えました。参加者へのアンケートでは、「適切な環境と理解と時間があれば障害があっても自立できることが分かり、大きな安心感を覚えた」「みんなにとって特別支援教育が当たり前のことになれば、楽しく生活できる人が増えるのではないかと思った」などの意見がありました。

また昨年は、学校関係だけでなく初めて民生児童委員会でも研修を実施。町教育委員会の向井清（きよし）学校教育課長は、「民生児童委員さんからも研修を開きたいと声を掛けてもらいました。理解者が増えることがうれしい」と話します。

しかし一方では、まだ特別支援教育に対して「特別なこと」というイメージがあり、抵抗を感じて敬遠している人や、自分には関係がないと無関心な人もいます。

子どもは家庭や学校だけでなく、地域の中で育ちます。だからこそ、子どもたちの成長を後押しするような地域全体の温かい見守りや理解が大切。障害のある子に直接関わらなくても、地域に暮らす一人一人が子どもたちを取り巻く環境の一員。そのことを自覚し、関心を寄せることが「支援」の一歩です。

地域の声
Community's Voice

発達障害者支援・特別支援教育セミナー参加者にインタビュー

私たちもみんな「環境」になる
中尾美穂（みほ）さん（55）和田

約10年間、町の主任児童委員を務めています。臨時保育士として障害のある園児と関わっていたこともあり、本人や両親の一生懸命な様子に、「自分にできることは応援したい」という思いを抱きました。以前に受けた研修で、私たちもみんな「環境」なのだというお話がありました。一人一人の小さな行動が積み重なって、大きな力になればいいと思います。

知らなければ対応できない
佐伯實夫（じつお）さん（70）内子21

以前から障害のことに関心があり、いろいろな会に参加していましたが、今回のセミナーで初めて発達障害のことを具体的に知りました。知らないままだったら、そのような人を見かけても、ただ「わがままな人」と思うだけで気付かなかったと思います。知っていて初めて理解し、対応することができます。もっと多くの人に知らせることが大切だと感じました。

例えば、「日本語しか話せない」人が海外へ行けば、「コミュニケーションの障害がある」ということになります。しかし、そこに日本語表記があったり、通訳がいたりすれば、問題は解消されます。

人はそれぞれ、自分の意思とは関係なくさまざまな特性を持って生まれます。しかしその特性によって生じる「障害」は、「環境」が生み出しているとも言えます。

人と人が互いに認め合い支え合えば、障害は「障害」ではなくなるかもしれません。家庭、学校、地域など身近な環境の中で、互いを思い合うつながりがもっと増えれば、障害に関係なく、自分の力を発揮しながら生き生きと成長していけるはず。

建物や制度を変えることは一人では難しいけれど、心は今からでも変えられます。

ハード（建物や制度）よりも、まずはハート。

子どもたちの頑張る姿や成長の軌跡は、大人の心も育ててくれます。「地域みんなで育ち合う」という温かいハートを増やしていきましょう。

子育てサークルFun Fun Mammy's（ファン ファン マミーズ）の皆さん。親子で集まって楽しく遊んだり、子育ての不安や悩みを相談したりしながら、みんなで育ち合っています

監修：内子町特別支援連携協議会委員、臨床心理士・久保由美子（ゆみこ）